

第3WG第4回会合開く 分析対象の広がりに対し標準物質の整備が急務

計量制度検討小委員会第3ワーキンググループ(WG)第4回会合が10月26日、経済産業省で行われた。同WGの第2、3回会合議事録が全会一致で承認された。

計量標準・標準供給のあり方をめぐり、第3WGでは関係者ヒアリングを継続して行っている。今回は研究、分析を行う機関を対象に、環境、医薬、食品の分野から関係者を招いた。それぞれの立場から標準物質や試薬の使用状況、国際整合化への取り組みを述べた。

一定に分析法が追いつかない、という現状もある。環境計測は将来、測定項目の増加、多様化から一斉分析が拡大、前処理の簡略化や分析装置の高度化、高分離・分解能力が進むことが予想される。よりスムーズな分析のためには、適当な濃度範囲の標準(混合物質含む)供給、抽出、前処理の省力化、自動化、小型化が望まれるとした。

臨床標準化の積極的参画を

日本臨床検査標準協議会藤橋和夫事務局長は、事業概要を述べた。同会は臨床検査医学の標準化に関する協議を行い、積極的に国際標準に働きかける活動を行っている。臨床検査の標準化を進める国際組織・JCTLMの第1回総会が行われたのは2002年と、歴史は浅い。その中でも日本提案の標準物質がJCTLMで承認されている実績を紹介した。

将来への意見として、標準品の整備と国際的な対応・リード、標準品の厚生労働省での認知、主要項目でのトレーサビリティの確保、健診項目や臨床検査データが有用な

が入手できない。また、標準物質も規格が曖昧である、といった点を当面の問題に挙げた。

食品分析の信頼性確保における要求事項に妥当性確認(バリデーション)があるが、この真度、不確かさを求める際に必要な認証標準物質の種類が少ない。分析対象やマトリクスの多様性ゆえ、食品分析においては、目的にあった標準試料が利用できない点も指摘した。

試験所のトレーサビリティ

食品総合研究所安井明美分析科学部長は「食品分析における国際整合性の確保」として、主に試験所における技能試験を中心に説明した。

年6月日本科学機器団体連合会理事▽74年6月同会副会長▽92年6月同会会長▽63年1月東京科学機器協会理事▽74年6月同会副理事長▽92年6月同会理事長▽85年5月(社)東京都計量協会理事▽01年5月同会常任理事▽03年5月同会副会長▽63年11月(財)日本発明振興協会評議員▽92年4月(社)日本橋法人会本町四丁目副支部長▽04年12月(株)日本工業新聞社先端技術大賞審査委員

◇受賞歴▽83年6月東

難しい食の安全担保

国立医薬品食品衛生研究所松田りえ子食品部第4室長は、食物アレルギー分析の現状を述べた。表示を義務づけられているアレルギー食品(卵、牛乳、小麦、そば、落花生)についてはそれぞれ標準液を作成しているが、国際的な標準がなく、比較ができない。農薬等のポジティブリスト制度実施に必要な標準品の数が700種以上に増加し、必要な純度の標準品

が入手できない。また、標準物質も規格が曖昧である、といった点を当面の問題に挙げた。

食品分析の信頼性確保における要求事項に妥当性確認(バリデーション)があるが、この真度、不確かさを求める際に必要な認証標準物質の種類が少ない。分析対象やマトリクスの多様性ゆえ、食品分析においては、目的にあった標準試料が利用できない点も指摘した。

試験所のトレーサビリティ

食品総合研究所安井明美分析科学部長は「食品分析における国際整合性の確保」として、主に試験所における技能試験を中心に説明した。

年6月日本科学機器団体連合会理事▽74年6月同会副会長▽92年6月同会会長▽63年1月東京科学機器協会理事▽74年6月同会副理事長▽92年6月同会理事長▽85年5月(社)東京都計量協会理事▽01年5月同会常任理事▽03年5月同会副会長▽63年11月(財)日本発明振興協会評議員▽92年4月(社)日本橋法人会本町四丁目副支部長▽04年12月(株)日本工業新聞社先端技術大賞審査委員

◇受賞歴▽83年6月東

叙勲受章者紹介

【旭日小綬章】

入江照四氏



(いりえ・しょうじ) 日

本科学機器団体連合会会長▽1933(昭和8)年3月28日生▽55年3月東京薬科大学卒▽同年4月(株)入江製作所入社▽68年5月同社代表取締役社長▽2005年1月入江(株)代表取締役社長▽68

JQA 新JISマーク第一号を認証 TOTOO小倉工場に

新JISマーク表示制 証取得事業者となった。倉第一工場で実施。その工場審査結果の活用と、さらにJQAが認証機関として登録された後、製品のJIS規格への適合性試験など認証に必要な手続きが完了し、今回の第一号認証となった。

JQAでは、認証サービスを通じ、市場における新JISマークの信頼

場審査能力を実証するため、国の審査官立ち会いのもと、品質管理体制の認証の内容は以下のとおり。

審査を9月に東陶機器小倉第一工場で行った。これにより東陶機器は、今年10月からスタートした新制度に基づき、食品分析の国際整合性は、Code x(国際食品規格委員会)のガイドラインに整合する形でCIPM-CCQM(国際度量衡委員会物質質量問題試験所)でも協議が進んでいる。食品の輸出入の

規制に係わる試験室の条件として、適切な技能試験への参加が求められている。試験所間の比較を目的とした国際的的技能試験は英国CSLが中心的存在であり、同所も2002年度から参加している。

食品分析の国際整合性は、Code x(国際食品規格委員会)のガイドラインに整合する形でCIPM-CCQM(国際度量衡委員会物質質量問題試験所)でも協議が進んでいる。食品の輸出入の

規制に係わる試験室の条件として、適切な技能試験への参加が求められている。試験所間の比較を目的とした国際的的技能試験は英国CSLが中心的存在であり、同所も2002年度から参加している。

場審査能力を実証するため、国の審査官立ち会いのもと、品質管理体制の認証の内容は以下のとおり。

審査を9月に東陶機器小倉第一工場で行った。これにより東陶機器は、今年10月からスタートした新制度に基づき、食品分析の国際整合性は、Code x(国際食品規格委員会)のガイドラインに整合する形でCIPM-CCQM(国際度量衡委員会物質質量問題試験所)でも協議が進んでいる。食品の輸出入の

規制に係わる試験室の条件として、適切な技能試験への参加が求められている。試験所間の比較を目的とした国際的的技能試験は英国CSLが中心的存在であり、同所も2002年度から参加している。

食品分析の国際整合性は、Code x(国際食品規格委員会)のガイドラインに整合する形でCIPM-CCQM(国際度量衡委員会物質質量問題試験所)でも協議が進んでいる。食品の輸出入の

規制に係わる試験室の条件として、適切な技能試験への参加が求められている。試験所間の比較を目的とした国際的的技能試験は英国CSLが中心的存在であり、同所も2002年度から参加している。

食品分析の国際整合性は、Code x(国際食品規格委員会)のガイドラインに整合する形でCIPM-CCQM(国際度量衡委員会物質質量問題試験所)でも協議が進んでいる。食品の輸出入の

規制に係わる試験室の条件として、適切な技能試験への参加が求められている。試験所間の比較を目的とした国際的的技能試験は英国CSLが中心的存在であり、同所も2002年度から参加している。

食品分析の国際整合性は、Code x(国際食品規格委員会)のガイドラインに整合する形でCIPM-CCQM(国際度量衡委員会物質質量問題試験所)でも協議が進んでいる。食品の輸出入の